

# 「高齢者住宅新聞」2012年8月15日号に インディペンデンスヴィレッジ成城西の連載 第4回目が掲載されました。(全6回)

## 今回は伊藤様ご夫妻へのインタビューです。

### 第4回 二人で送る自立生活

「残りの人生、有意義に  
楽しみたい」というのが伊  
藤迪子さん(みちこ、80)  
のモットー。夫の貞夫さん  
(88)とともに4年前に入  
居。貞夫さんはマンション  
で最高齢だ。



貞夫さんは大手電気機器  
メーカーに長年勤め、現在  
もインターネットが趣味。

一方、迪子さんは結婚前か  
ら華道が生きがい。週一回  
の華道を入居後も続けて通  
い、マンションのエントラ  
ンスに花を活けている。二  
人は9歳の年の差があり、  
音楽の共通趣味はあるもの  
の過ぎしてきたフィールド

も異なる。

迪子さんは「生まれが大  
正と昭和で年代も違うから  
話も合わないわよ」という  
が、長い間年上の貞夫さん  
を慕い頼ってきた。貞夫さ  
んも「今は出来ないことが  
多くなってきて妻に頼る部  
分が多い」と互いに思いあ  
う。



高齢者向けマンションに  
入居するかどうか検討して  
いた矢先、偶然このマンシ  
ョンのことを知った。50年  
間過ごした都内の自宅でも  
不自由なことが多くなって  
いた。

自宅の部屋にベッドが入  
らないことや、食事の用意  
も面倒になって二人での入  
居を決めた。自宅から公共  
交通機関でも30分以内で行  
き来でき、生活スタイルを  
大きく変えなくて済むこと  
も魅力だった。

入居時は二人とも75歳を  
過ぎており、住まいを変え  
ても「自宅にいたことと同  
じ環境を作りたかった」と、  
迪子さんは自宅の部屋の配  
置をそのまま再現したり、

### 楽しむために 生活デザイン



▲迪子さんが生けた花を前に

**伊藤 迪子さん(80)**  
**貞夫さん(88)**

華道の稽古を続け、貞夫さ  
んとの散歩も楽しんだ。  
貞夫さんは若いころから  
山歩きが好きで、入居後も  
万歩計を持ちながら歩くこ  
ろがある。

現在は近所のリハビリに

二人には子どもがおら  
ず、財産管理や医療など不  
安なことは先回りして手を  
打った。親族に任意後見人  
になってもらい、医療に関  
しては信頼できる循環器医  
師にかりつけ医となって  
もらった。

貞夫さんのリハビリも、  
頼りになる講師のもとで順  
す。

※毎月15日号に連載しま

【取材協力・インディペ  
ンデンスヴィレッジ成城  
西】  
東京都狛江市。生活支  
援付きの高齢者向け分譲  
マンションとして平成15  
年に竣工。全68戸。